

学芸スタッフ紹介

皆さん、こんにちは。5月から学芸スタッフとしてプラネタリウムの投影を担当しています、長尾碧(ながおみどり)です。よろしくお願いします。

突然ですが、皆さんがプラネタリウムに行くのはどういう時でしょうか。学校行事、家族でのお出かけなど、非日常のイベントである時が多いでしょうか。

実は私にとっては、日常の中にあるものでした。母校にプラネタリウムがあり、天文部の活動の中でほぼ毎日プラネタリウムの星空を眺めていました。恐らく、本物の星よりプラネタリウムの星を見た時間の方が長いと思います。まさに私の青春そのものだった訳です。

そんな私が仕事としてプラネタリウムで解説をするようになって、プラネタリウムで星を見ることについて、改めて考えるようになりました。

学校のプラネタリウムで、私はいつも誰かと一緒に星空を見上げていました。暗闇の中で、囁き声が聞こえたり、ただ無言で星空を指差したりする時間がありました。そう、プラネタリウムには必ず自分以外の誰かがいるのです。解説員になった今も、来場される皆さんと一緒に星を見上げています。私はそのことが、誰かと星を見ることが大好きなのだ、と気づきました。

プラネタリウムの星は作り物——と偶に言われますが、そこで過ごした時間や感じたことは偽物でも作り物でもない、本物です。

嗚呼……美しい、わくわくする、切ない、ドキドキする！ 体験した全ての非日常は、いずれ日常へと静かに息づいていきます。その時間や空間の一部になれるこの仕事が、私は大好きです。

近代的なプラネタリウムが誕生して今年で100年(実はメモリアルイヤーなんですよ！)、満天の星だけでなく、大迫力の映像、遠隔地からの中継映像など、プラネタリウムで見られるものは多様

になりました。皆さんの非日常と日常を繋げて、実際の空の楽しみ方は勿論、プラネタリウムならではの楽しみも一緒にできれば嬉しいです。

さあ、一緒に空を見上げましょう。



長尾 碧(プラネタリウム担当)